

衛生と 環境

No.111

2005年3月1日

編集 滋賀県立衛生環境センター
発行 〒520-0834 大津市御殿浜 13-45
Tel 077-537-3050 Fax 077-537-5548
e-mail : ef45@pref.shiga.jp
HP: <http://www.pref.shiga.jp/e/ef45/>



【衛生環境センター外観】

内容

「衛生と環境」の最終号によせて
水質の常時自動監視
性器クラミジア感染症
琵琶湖の環境ホルモン
黄色鞭毛藻類 ヲグレ アリカー

「衛生と環境」の最終号によせて

当所の前身である衛生研究所は昭和27年に発足し、昭和52年4月には研究所と環境センターが統合され、衛生環境センターとして公衆衛生および生活環境の分野の試験検査、調査研究、研修指導および情報の解析・提供という4つを柱として、県民の健康維持に切磋琢磨してまいりました。しかし、平成17年度に当所の環境部門は、複雑・多様化する環境問題に対応するため、分野を越えた幅広い連携のもとに、県民ニーズ・行政ニーズなど様々な状況変化を見極め、滋賀県と琵琶湖の環境に関する総合的な試験研究機関、県民に関われた試験研究推進の中核拠点として再編成するため琵琶湖研究所と統合され、自然科学、人文・社会科学的アプローチにより、短期および中長期的課題を解決するための機能を持つ機関として整備されます。残る衛生部門は、県民の健康維持、健康危機管理体制を構築していくためにこれまで以上に両機関の連帯が重要であり、相互性・相補性は「くらし安心県」の科学的データを生み出す組織として協働していくためのテーゼになると考えています。そのためには各々の職員が共存しあい、家族的な結合

を再建する新たな道を開く必要があります。アーノルド・トインビーが述べているように「兄弟のように、ひとまとまりとなって一緒に住むという難しい技術」を習得しなければならないし、組織の健康を維持するためには「愛しかつ働くこと」(Lieben und arbeiten)とフロイドは述べ、カール・メニンジャーは「精神の健康とは、人々が最も能率よく、最も幸福に、世の中や人間関係に適応すること」と考えました。その3つの要素として環境を支配する積極的な適応、積極的適応により行動の柔軟性が発揮されるがパーソナリティの統一性や内的な統合性の維持で安定していること、また最後に世の中や自分を正しく認知する能力をヤホーダはあげています。組織は成熟し、機能するまでに多くの試練があることですが、乗り越えることによりダイナミックな県民に資する事業が展開されるものと考えられます。職員に対するはなむけの言葉としましたが、「衛生と環境」は111号をもって最終号となります。御講読に感謝し、両機関への御指導と御鞭撻を今後とも賜りますようお願い申し上げます。

【衛生環境センター所長】